

条幅部自由参考

10月25日正午必着

明石春浦先生書



落葉常疑レ雨 (偈侯斯)

これ山中留宿の夜である。

明石幸子書



何處秋風至
朝來入二庭樹

蕭蕭送二雁
羣一孤客最先聞

(劉禹錫)

どこから、この秋風が吹いてくるのであろうか、さびしい音をたてながら、雁の群れを送ってくる。今朝がたから、庭木のなかに吹き込んだのを、ひとりぼっちの旅人、この私が、まっさきにかぎつけた。

条幅部創作課題

四種の詩文から一種を選択して出品のこと。

身閑自與俗子遠
睡美不知秋夜長
雲林野思幽夢
細草幽蘭秋徑馥
清風明月夜窓虚

森戸春濤書

身閑自與俗子遠。睡美不知秋夜長。(陸游) 身もまた健である。

雲林野思幽夢 (倪瓚)

雲林野思幽夢

閑居の楽しさ―雲のかかれる山林・ひなびた感興・しずかな夢。

細草幽蘭秋徑馥 (胡居仁)

細草幽蘭秋徑馥しく

馥は香る。徑は庭のこみち。庭のこみちには秋の草々や蘭が香り、静かな窓へには清風明月がおとずれる。

清風明月夜窓虚

清風明月夜窓虚なり

り、静かな窓へには清風明月がおとずれる。

秋日送方干游上元 (曹松)

秋日 方干の上元に遊ぶを送る 曹松

天高淮泗白 料子趣脩程

天高くして 淮泗白し 料る 子が脩程に趣くを

汲水疑山動 揚帆覺岸行

水を汲みては 山の動くかと疑い 帆を揚げては 岸の行くかと覚ゆ

雲離京口樹 雁入石頭城

雲は離る 京口の樹 雁は入る 石頭城

後夜分遙念 諸峯霧露生

後夜 遙念を分ち 諸峰 霧露生ず

立秋なる 曆の文字にほつとして 今朝の食パン ねんごろに焼く (近藤 清子)

半紙部規定課題A

10月25日正午必着

京 懷
華 玉
泣

※作品には必ず落款を入れてください。

明石春浦先生書

※課題A(楷書)と課題B(四体の中より一書体選択)の二点を出品のこと。

半紙部規定課題B

10月25日正午必着

行書

懷玉泣
京華

時玉泣
京華

隸書

懷玉泣
京華

時玉泣
京華

明石春浦先生書

草書

行草書

美玉を抱きながら（才能を有しながら）、この京城繁華の地で涙にくれる 故郷の山々は、帰り行く道程があまりに遠い
静けさは禅僧の房に傍うてただよい 奥深さは庶民の家のよう
林に日は暮れて、鳥たちはねぐらの木を争い 庭に春が訪れ、蝶は花を守護するかのよう
東の城門の所には空き地がある 誰がかの邵平に倣って瓜を種えるだろう

下第寓「居崇聖寺」 許渾

懷玉泣京華

舊山歸路踪

靜依禪客院

幽學野人家

林晚鳥爭樹

園春蝶護花

東門有閑地

誰種邵平瓜

下第して崇聖寺に寓居す

許渾

玉を懷いて 京華に泣く

旧山 帰路踪かなり

静は禅客の院に依り

幽は野人の家を学ぶ

林は晩れて 鳥は樹を争い

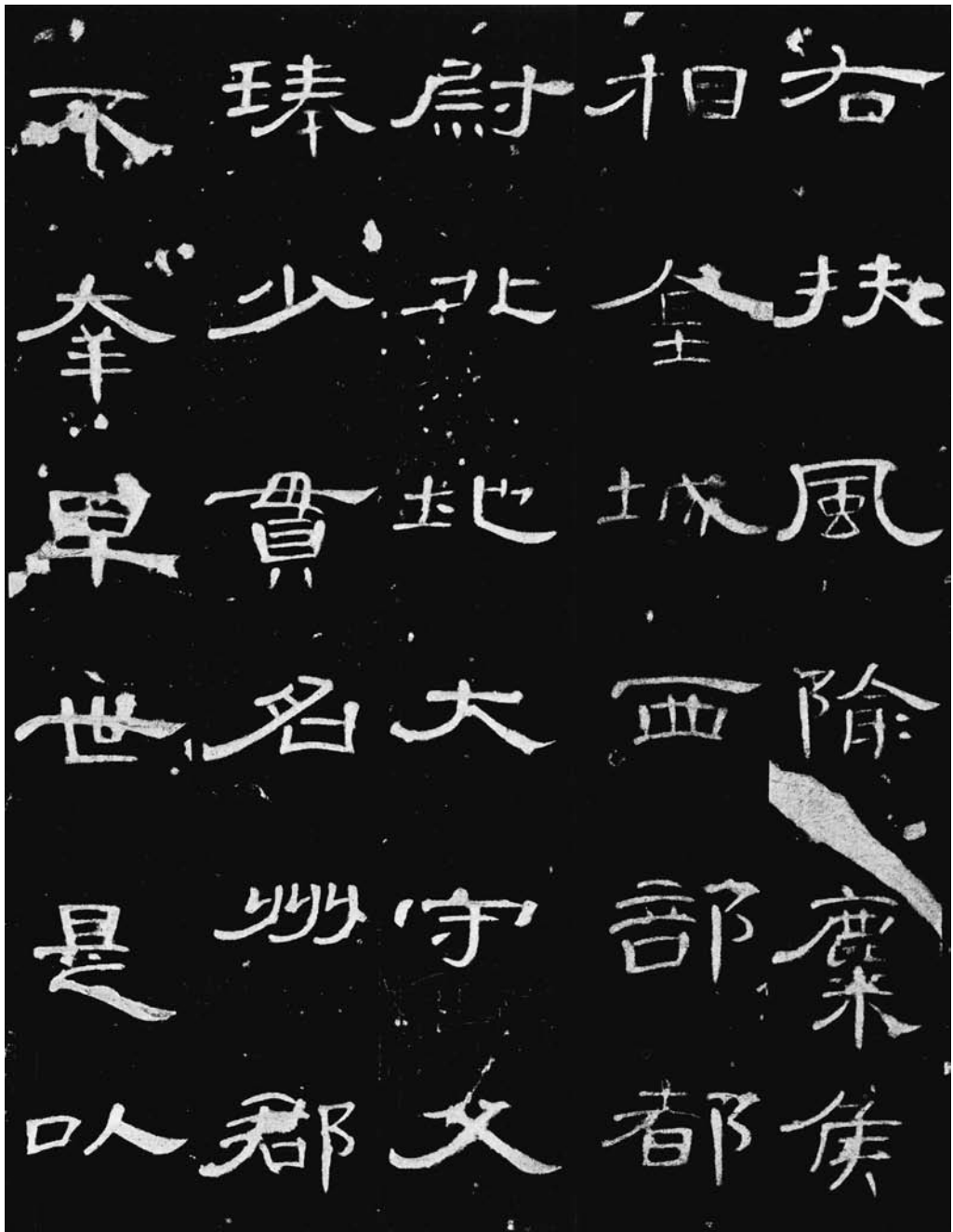
園は春にして 蝶は花を護る

東門に閑地有り

誰か邵平の瓜を種えん

条幅部半紙部臨書課題

右扶風隃麋侯相。金城西部都尉。北地大守。父瑒。少貴。名州郡。不幸早世。是以



10月25日正午必着



尉。北地太守。



相。金城西部都尉。北地太守。父瑋。少賁名（州郡）。

後漢・曹全碑

漢代の書道の主流は、隸書体であり、隸書の傑作はすべてこの時代につくられたといっても過言ではない。特に後漢において隸書は、洗練の一途をたどり、波磔をもった美しく都会的なものが多く見られる。

後漢の末期には、墓碑や頌徳碑など非常に多くの碑が建てられるようになった。

この碑は陝西省郿陽県令の曹全の功徳をたたえたもので、彼が生きていたうちに建てられたものらしく、墓碑ではない。碑陰には、金を出し合った者の姓名と各々の金額が刻されている。

書風は非常に典雅な趣があり、都会的な洗練された書風の一つともいえるべきである。結体はよく引き締まり見事に整っていて、線も簡古な高い響きをもっている。他碑の男性的書風に比べ、甘美・婉麗で女性的とも称される。しかし、反面やや法にはまり過ぎていて、学び方を間違えると、この碑の持っている生気を損ねる恐れがあるので留意したい。

この碑は比較的近代になり出土したため、破損が少なく筆画は鮮明であり、隸書学習に最適な古典といえよう。（春廣）

10月25日正午必着

教育部毛筆



ゆう
有

き
機

中学一年

雨宮春聲先生書



げき
劇

だん
団

中学二三年

菅井松雲先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



しゅっ ばん
出 版

小学五年

藤井良泰先生書



たい そう
体 操

小学六年

森戸春濤書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

10月25日正午必着



よう

けん

小学三年

細谷春誠先生書



つき

よ

小学四年

榎戸春龍先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



明石幸子書

らん 小学一年・幼年



藤田幸春先生書

行く 小学二年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

教育部硬筆

ペン字部

し雲が流れている
秋晴れの空にいわ

小学五年

な紅葉につつまれる
山全体が燃えるよう

小学六年

人物に心をうたれる
伝記や物語に登場する

中学

美しい紅葉にかざら
れた山道を歩いた

一般(級位)

白魚の移ろひ群の乱れが
れ初秋の雲の空にすずしき

白魚の移ろひ群のひとながれ 初秋の雲の空にすずしき (北原白秋)

一般(段位)

明石幸子書

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

く	も
	み
な	じ
り	が
ま	
し	あ
た	か

幼年

の	た
ね	い
	こ
村	と
ま	
つ	ふ
り	え

小学一年

お	赤
よ	い
い	金
で	ぎ
い	よ
ま	が
す	

小学二年

ま	小
つ	川
か	に
な	流
も	れ
み	る
じ	

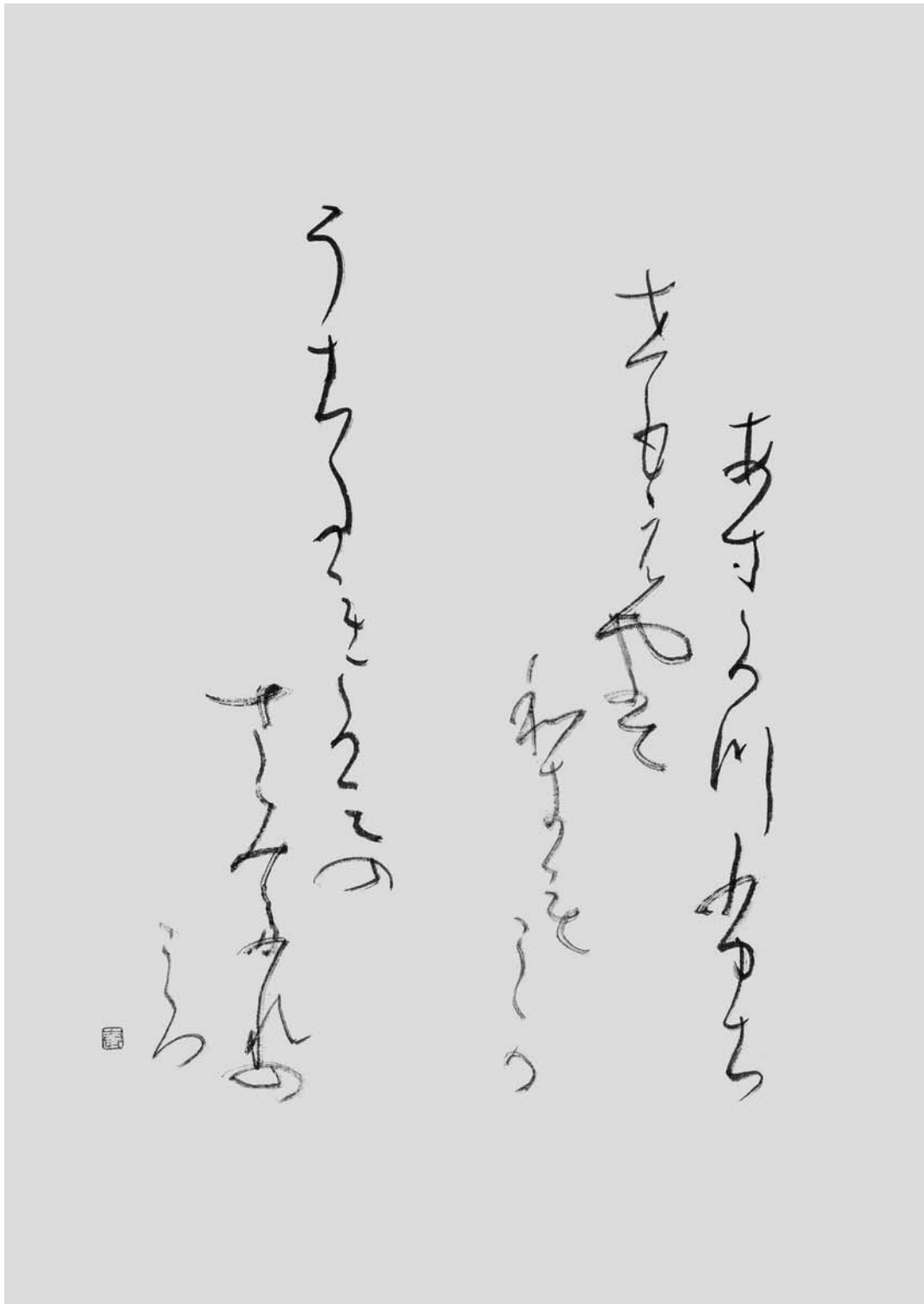
小学三年

り	読
見	書
な	の
い	秋
よ	テ
う	レ
に	ビ
す	ば
る	か

小学四年

明石幸子書

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。



あすか川^{がは}
 寸可
 布^はふちせもえやは
 世盤
 和支毛^もこが
 可
 うちたれがみの
 多連可三
 さみだれのころ
 多
 (順徳院)^{じゆんとくいん}

岩本景楓先生書

11月号予告

一般半紙部規定

許渾『下第寓居崇聖寺』から「舊山歸路踪」
 条幅部・半紙部臨書課題「呉昌碩・杜甫七律行書幅」

みち

小学二年

のバラ

小学四年

の少年志

小学六年

文黄河

中学二・三年

ごだん

小学一年・幼年

空ほし

小学三年

く虫里な

小学五年

学生者物

中学一年

かぎをかけた外
 出するのは不用心だ

小学五年

北の山は早くも冬の
 足音が近づいている

小学六年

山頂から見ると美しい
 晩景に心をうたれる

中学

月のおりなす光と影は闇
 にとけ静かな夜を作る

ペン字(級位)

鹿の音に響く——ふた馬の
 の尾のよみはなをうたれる

ペン字(段位)

にほ
 う
 としが
 ばが
 さ
 れか
 たせ

幼年

木の
 のみ
 をた
 やこ
 べる

小学一年

のこ
 う
 がえ
 まん
 に
 ち
 る木

小学二年

けわ
 しい
 山
 なみ

小学三年

冷たい風がふきぬけ
 る夕ぐれの公えん

小学四年